

ライオンズクエスト交付金助成申請書 (Lions Quest Grant Application)

一般情報 (General Information)

1. 申請日：2024年1月31日
2. 申請地区：337-D
3. 国：日本
4. 幹事地区：該当無し
(二つ以上の準地区が申請する場合、一つの地区を記録上の主な申請地区として指定する)
5. 申請金額：15,400ドル
6. 関係クラブ：
 - 鹿児島リジョン：鹿児島さつま (2Z)、与論 (8Z)
 - 沖縄リジョン：浦添・浦添てだこ (2Z)

ニーズ調査／現状 (Needs Assessment/Current Situation)

7. 対象となる地域の青少年が直面している重大な問題、特に地域全体に共通する課題と、問題行動に走りそうな青少年の数が特に多い地域の抱える課題について、説明してください。この交付金事業の対象地域に関するデータを提供してください。

337-D 地区は、鹿児島県と沖縄県の2県を含む地区です。

鹿児島県では、子どもを取り巻く現状と課題として次の項目を上げている（「鹿児島県教育振興基本計画」平成31年2月 鹿児島県教育委員会）。1）児童生徒の減少・学校規模、2）学力、3）高校生の卒業後の進路、4）いじめ、不登校、5）規範意識、6）基本的な生活習慣、7）特別支援教育、8）キャリア教育、9）体力や運動能力、10）安心・完全な教育環境の整備、11）家庭・地域の教育力、12）子どもたちの文化活動。例えば、「2）学力」については、国が実施している調査で全国平均を下回る状況があり、子ども自身の「学力」の向上のみならず、教員の指導力の向上が必要不可欠としています。「4）いじめ、不登校」では、前年度より減少傾向にあるが、まだ喫緊の課題であり、昨今のインターネット機器とソーシャルネットワークの普及による新たな課題への対応の必要性に触れています。またコロナ禍により長く続いた学校生活における様々な制限によるコミュニケーション・人間関係づくりなどへの影響も心配されている

沖縄県では、隣接する鹿児島県と共通する課題を抱える一方で、多くの島々（39の有人離島）で構成されていることなどによる特徴的な課題もある。暴力行為およびいじめについては全国平均を上回っている。鹿児島県では学校単位でのワークショップ開催によるライオンズクエスト普及拡大を進める一方で、浦添市が市教育委員会の教員研修（2・3年次）としてワークショップを開催しており、市区町村単位での取り組み事例が生まれている。

以上のとおり、337-D 地区内の教育的な課題は、ライオンズクエストが有効に対応し得るもので、公教育の中に定着している・定着し始めている事例もあり、地区内への益々の普及拡大が期待される。

なお、対象地域に関するデータ（学校数、教員数、生徒数、青少年問題に関する）は、別紙「337-D 地区（鹿児島・沖縄）の現状」を参照ください。

目標及び目的 (Goals and Objectives)

8. ライオンズクエストの開拓・拡大に向けた申請地区の計画における目標および目的をまとめて記述してください。これには、交付金事業実施期間（1年から2年）に達成する事項の説明と、研修する教員およびプログラムを導入する学校の具体的目標数を含めます。
- ライオンズクエストの理念と指導方法を身に付けた教員・指導者を養成し、地区内の子ども・青少年にライフスキル教育が行われ、対象地域の青少年の問題解決・ニーズへの対応に寄与する。
 - ライオンズクエストの実施校ができ、地区内の子ども・青少年にライフスキル教育が行われ、対象地域の青少年の問題解決・ニーズへの対応に寄与する。
 - ライオンズクエストの実践教員・指導者に対して、実践上の課題・ニーズに対するフォローアップ活動を行い、実践の継続性を強化する。
 - 地区内の教育関係者へのセミナーを通してライオンズクエストを紹介し、ライオンズクエストおよびライフスキル教育の社会的な認知度を向上する。
 - 地区ライオンズクエスト委員会のイニシアティブにより、地区内のクラブのライオンズクエストアクティビティーへの関心が高まり、地区キャビネット・委員会とクラブの連携による中長期的な活動基盤が強化される。

【事業実施計画】

事業内容	開催数	参加者数/校数	備考
ワークショップ:基本編+実践編(2日)	3回	75名	鹿児島県鹿児島市 沖縄県浦添市・渡名喜村
ワークショップ:実践編(1日)	1回	25名	沖縄県浦添市
フォローアップ校内研修	2回	50名	沖縄県浦添市
体験セミナー	6回	300名	鹿児島県与論町 沖縄県那覇市・浦添市・宮古島市・久米島町
実践校		4校	鹿児島県、沖縄県

【各事業内容の説明】

- ワークショップ：基本編（1日）：ライオンズクエストを使用して児童・生徒/子ども・青少年に授業を行うために必須の教員・指導者研修（研修時間：1日、講師：ライオンズクエスト認定講師）
- ワークショップ：実践編（1日）：「基本編」を修了し、実践している教員・指導者が、プログラムの実践をさらに深めるための研修（研修時間：1日、講師：ライオンズクエスト認定講師）
- ワークショップ：基本・実践編（2日）：「基本編」と「実践編」を合わせて開催する研修（研修時間：2日、講師：ライオンズクエスト認定講師）
- フォローアップ校内研修：ライオンズクエストを導入している学校（実践校）を対象に、実践をさらに深めるための校内研修（研修時間：半日から1日、講師：ライオンズクエスト認定講師）
- セミナー：ライオンズクエストの考え方や指導方法、授業内容を体験型で紹介する説明会（開催時間：1～2時間、講師：ライオンズクエスト認定講師、説明員、普及事務局スタッフ）

【ライオンズクエスト授業の受講生徒数（見込み）】

1,094名

本プロジェクトで開発される実践校での授業の受講生徒数（見込み）

地域	学校種類	実践校数	1校あたりの生徒数	受講生徒数
鹿児島	小学校	1	175	175
	中学校	1	206	206
沖縄	小学校	1	377	377
	中学校	1	336	336
合計		4		1,094

（※「1校あたりの生徒数」は、別紙「地区の現状」より算出）

9. 上述の目的・目標を達成するための行動手順と戦略をまとめてください。各段階の実行予定表とスケジュール詳細を必ず記述してください。各段階の実行予定表とスケジュール詳細を必ず記述してください。

- 地域の子ども・青少年の課題・ニーズに対して、ライオンズクエストを活用した教育活動ができる教員・指導者を養成する為、ワークショップ：基本編＋実践編（2日）を開催する。

	時期	行動計画・戦略
1	開催1年～	本プロジェクトに関係する各クラブが、運営委員会／地区委員会と連携して、地域の行政や学校に働きかけ、Lions Questプログラムへの理解とワークショップ開催の協力を得る。
2	～半年前	行政や学校と協議して、地域の子ども・青少年の課題・ニーズ、ライオンズクエストの導入目的を確認する。
3	～3ヵ月前	行政や学校、ライオンズクエスト普及事務局と連携して、教員・指導者が参加し易い日程を確認し、ワークショップ開催を調整する。
4	～3ヵ月前	ワークショップ開催の決定
5	開催3ヵ月前～	行政や学校の協力を得て、準備体制づくりや会場の確保、参加者の募集など、開催当日に向けた準備を進める。
7	開催当日	ワークショップ開催
8	開催後～（数ヵ月中）	行政やワークショップ修了者の所属する学校を訪問し、ワークショップの研修効果やプログラムの実践状況などを聞き取る。

- ワークショップを修了した教員・指導者のライオンズクエスト実践継続を強化する為、実践上の課題・ニーズに対するフォローアップ活動として、ワークショップ：実践編（1日）およびフォローアップ校内研修を開催する。

	時期	行動計画・戦略
--	----	---------

1	開催1年～	本プロジェクトに関係する各クラブが、運営委員会／地区委員会と連携して、過去にワークショップを開催した地域の行政やワークショップに参加した教員の所属する学校を訪問し、プログラムの活用状況やプログラムを活用していく上での課題やニーズを確認する。
2	～3ヵ月前	行政や学校と協議して、またライオンズクエスト普及事務局と連携して、教員・指導者が参加し易い日程を確認し、開催日程を調整する。
3	～3ヵ月前	ワークショップ開催の決定
4	開催3ヵ月前～	行政や学校と連携して、開催当日に向けた準備を進める。
5	開催当日	ワークショップ開催
6	開催後～（数ヵ月中）	行政やワークショップ修了者の所属する学校を訪問し、ワークショップの研修効果やプログラムの実践状況などを聞き取る。

- ライオンズクエストおよびライフスキル教育の社会的な認知度が向上する為、地区内の教育関係者を対象とするセミナーを開催する。

	時期	行動計画・戦略
1	開催数ヵ月前まで	本プロジェクトに関係する各クラブが、運営委員会／地区委員会と連携して、地域の行政や学校などをライフスキル教育およびライオンズクエストを紹介するセミナーの開催を提案する。
2	～3ヵ月前	行政や学校からのセミナー開催の要望をもとに、日程、開催地、内容などの開催概要についてライオンズクエスト普及事務局を含めて協議し、開催を調整する。
3	開催3ヵ月前～	当日までの開催準備を、関係者と連携して進める
4	開催当日	セミナー開催
5	開催後以降～	開催後、セミナー参加者からライオンズクエストに対する関心を聞き取り、ワークショップの開催、ライオンズクエストを導入する学校の発掘に繋げる。

10. 運営委員会のメンバー全員の氏名、役職名、Eメールアドレスを列記してください。

337-D地区ガバナー 新里 正雄 lion003r@estate.ocn.ne.jp

337-D地区クエスト委員長 高良 恒己 tedako-lc@nirai.ne.jp（事業委員長）

337-D地区第一副地区ガバナー 宇都 要一 kaname.5153@gmail.com

337-D地区第二副地区ガバナー 脇黒丸 一典 wakikuromaru@k-taiga.co.jp

財務上の規定（Financial Requirements）

11. 事業実施期間全体に渡る収入と支出をまとめた事業予算を提示してください。

別紙「収支予算表」を参照。

申請書証明 (Application Endorsement)

複合／単一または準地区は、それぞれ複合地区協議会または地区キャビネットより証明を受けなければなりません。これは、交付金を申請するとの決定が承認された協議会会議またはキャビネット会議の議事録のコピーをもって示す必要があります。二つ以上の準地区が合同で申請する場合、各準地区が当該キャビネット会議の議事録を提出します。交付金が承認された時の協議会議長または単一／準地区ガバナーが、交付金管理責任者を務めます。

添付「第3回キャビネット会議議事録」を参照。

なお、第3回キャビネット会議は2024年2月16日に開催を予定している為、議事録は開催後に速やかに提出します。

地区ガバナーまたは協議会議長による署名証明

(Required Signature Endorsements by District Governor or Council Chairperson)

私の知る限り、ここに提示された情報は正確であり、プログラムの必要が記述されたとおりに存在します。以下に署名することにより、私は、本申請書を証明するとともに、資金が交付された場合には、適切かつ効果的な資金管理、正確な会計処理、ならびにライオンズクラブ国際財団への定期的な報告が行われるよう、全力を尽くします。

地区ガバナー

署名： 新里 正雄
氏名： 新里 正雄
地区名： 337-D地区
住所： 〒900-0032 那覇市松山2-1-12 合人社那覇松山ビル403
Eメール： lion003r@estate.ocn.ne.jp
電話番号： 098-864-1640

事業委員長

署名： 高良 恒己
氏名： 高良 恒己
地区名： 337-D地区
住所： 〒901-2103 浦添市仲間1-10-7 浦添市社会福祉センター2F 浦添てだこライオンズクラブ気付
Eメール： tedako-lc@nirai.ne.jp (浦添てだこライオンズクラブ気付)
電話番号： 098-876-6058 (浦添ライオンズクラブ気付)

ライセンスワークエスト交付金：収支予算書

作成日	2024/1/31
申請金額(US\$)	US\$15,400
申請金額(¥)	¥2,156,000
為替レート(¥/US\$)	\$140

		1年目：2024-2025			合計	割合
		予算			予算	予算
			金額(¥)	金額(¥)	金額(¥)	
収入						
LCIF交付金			2,156,000	2,156,000	2,156,000	74.9%
国内資金：						
複合地区／地区拠出金			724,000	724,000	724,000	25.1%
収入合計			2,880,000	2,880,000	2,880,000	
支出						
		単価(¥)	数量	単位	金額(¥)	
ワークショップ(基本・実践編)開催費		528,611	3	回	1,585,833	
ワークショップ(実践編)開催費		234,055	1	回	234,055	
フォローアップ校内研修		98,722	2	回	197,444	
体験セミナー開催費		96,222	6	回	577,332	
支出小計					2,594,664	
事務所経費					285,336	9.9%
支出合計					2,880,000	

収支差額		-
------	--	---

ワーキングショップ・基本・実践編(2日間) 収支単価表

項目		単価 (単位:円)	数量	単位	金額	割合	備考
収入	LQIF交付金				440,068	75.0%	支出合計の最大75%まで
	国内資金						
	複合地区/地区拠出金				146,690	25.0%	地区・クラブの拠出金
	学校拠出金					0.0%	
	政府補助金					0.0%	
	地域拠出金					0.0%	
	ワーキングショップ参加費		25	名	-	0.0%	参加者25名を想定、教材費および昼食代を賄う設定を推奨(参考:教材費7,000円+昼食代2,000円=9,000円)
	その他					0.0%	
	収入 合計				586,758		
支出	講師関係費						
	謝金	111,111	1	回	111,111		固定
	日当	2,500	2	日	5,000		固定/日当は開催日のみ計上し、宿泊を伴う場合は1日2,500円、日帰りの場合は1日2,000円
	宿泊費	10,000	2	泊	20,000		実費
	交通費	40,000	1	往復	40,000		実費
	講師関係費 計				176,111		
	教材費						
	教材電子版	7,000	25	部	175,000		従量/参加者25名を想定。
	ワーキングショップハンドブック代	300	25	部	7,500		従量/参加者25名を想定。
	教材費 計				182,500		
	人件費						
	講師派遣・開催準備(普及事務局)	87,000	1	回	87,000		固定
	人件費計				87,000		
	その他						
	茶菓子代	3,000	2	日	6,000		実費
	昼食代	1,000	50	食	50,000		実費/参加者25名を想定(25名×2食=50食)
	会場費			日	-		実費
	印刷・文具代等(普及事務局)	13,000	1	式	13,000		固定
	印刷・文具代等(クラブ)	2,000	1	式	2,000		実費
	送料(普及事務局)	10,000	1	式	10,000		実費
	送料(クラブ)	2,000	1	式	2,000		実費
	その他 計				83,000		
	支出 小計				528,611		「収支予算表」の各活動の金額は、この支出小計を計上する

ワークショップ:実践編 収支単価表

項目		単価 (単位:円)	数量	単位	金額	割合	備考
収入	LQIF交付金				194,850	75.0%	
	国内資金						支出合計の最大75%まで
	複合地区/地区拠出金				64,951	25.0%	地区・クラブの拠出金
	学校拠出金					0.0%	
	政府補助金					0.0%	
	地域拠出金					0.0%	
	ワークショップ参加費		25	人	-	0.0%	参加者25名を想定、昼食代およびその他の開催費用の一部を賄う設定を推奨(参考:昼食代1,000円+2,000円=3,000円)
	その他					0.0%	
	収入 合計				259,801		
支出	講師関係費						
	謝金	55,555	1	回	55,555		固定
	日当	2,500	1	日	2,500		固定/日当は開催日にのみ計上し、宿泊を伴う場合は1日2,500円、日帰りの場合は1日2,000円。
	宿泊費	10,000	1	泊	10,000		実費
	交通費	40,000	1	往復	40,000		実費
	講師関係費 計				108,055		
	教材費						
	教材電子版	7,000		部	-		実費/参加者はワークショップ修了者を前提としている為、発生無しを想定
	ワークショップハンドブック代	300		部	-		実費/参加者はワークショップ修了者を前提としている為、発生無しを想定
	教材費 計				-		
	人件費						
	講師派遣・開催準備(普及事務局)	75,000	1	回	75,000		固定
	人件費 計				75,000		
	その他						
	茶菓子代	3,000	1	日	3,000		実費
	昼食代	1,000	25	食	25,000		実費/参加者25名を想定。
	会場費			日	-		実費
	印刷・文具代等(普及事務局)	10,000	1	式	10,000		実費
	印刷・文具代等(クラブ)	1,000	1	式	1,000		実費
	送料(普及事務局)	10,000	1	式	10,000		実費
	送料(クラブ)	2,000	1	式	2,000		実費
	その他 計				51,000		
	支出 小計				234,055		「収支予算表」の各活動の金額は、この支出小計を計上する。

フォローアップ校内研修 収支単価表

項目		単価 (単位:円)	数量	単位	金額	割合	備考	
収入	LQIF交付金				82,185	75.0%	支出合計の最大75%まで	
	国内資金							
支出	複合地区／地区拠出金				27,396	25.0%	地区・クラブの拠出金	
	学校拠出金					0.0%		
	政府補助金					0.0%		
	地域拠出金					0.0%		
	ワークショップ参加費				-	0.0%		
	その他					0.0%		
	収入 合計					109,581		
	講師関係費							
		謝金	22,222	1	回	22,222		固定／実施が半日の場合は22,222円、1日の場合は44,444円とする。
		日当	2,500	1	日	2,500		固定／日当は開催日へのみ計上し、宿泊を伴う場合は1日2,500円、日帰りの場合は1日2,000円。
		宿泊費	10,000	1	泊	10,000		実費
		交通費	40,000	1	往復	40,000		実費
	講師関係費 計					74,722		
	教材費							
		教材電子版	7,000		部	-		実費／参加者はワークショップ修了者を前提としている為、発生無しを想定
	ワークショップハンドブック代	300		部	-		実費／参加者はワークショップ修了者を前提としている為、発生無しを想定	
教材費 計					-			
人件費								
	講師派遣・開催準備(普及事務局)	15,000	1	回	15,000		固定	
人件費 計					15,000			
その他								
	茶菓子代	3,000	1	日	3,000		実費	
	昼食代			食	-		実費／学校内での開催を前提としている為、発生無しを想定	
	会場費			日	-		実費／学校内での開催を前提としている為、発生無しを想定	
	印刷・文具代等(普及事務局)	1,000	1	式	1,000		実費	
	印刷・文具代等(クラブ)			式	-		実費	
	送料(普及事務局)	5,000	1	式	5,000		実費	
	送料(クラブ)			式	-		実費	
その他 計					9,000			
支出 小計					98,722		「収支予算表」の各活動の金額は、この支出小計を計上する。	

体験セミナー_収支単価表

項目		単価 (単位:円)	数量	単位	金額	割合	備考
収入	LCIF交付金				80.104	75.0%	支出合計の最大75%まで
	国内資金						
	複合地区/地区拠出金				26.702	25.0%	地区・クラブの拠出金
	学校拠出金					0.0%	
	政府補助金					0.0%	
	地域拠出金					0.0%	
	ワークショップ参加費				-	0.0%	
	その他					0.0%	
	収入 合計				106.806		
支出	講師関係費						
	謝金	22,222	1	回	22,222		固定/実施が半日の場合は22,222円、1日の場合は44,444円とする。
	日当	2,500	1	日	2,500		固定/日当は開催日にのみ計上し、宿泊を伴う場合は1日2,500円、日帰りの場合は1日2,000円。
	宿泊費	10,000	1	泊	10,000		実費
	交通費	40,000	1	往復	40,000		実費
	講師関係費 計				74,722		
	人件費						
	講師派遣・開催準備(普及事務局)	15,000	1	回	15,000		固定
	人件費 計				15,000		
	その他						
	バンフレット代	30	100	部	3,000		従量/参加者100名
	会場費		1	式	-		実費
	印刷・文具代等(普及事務局)	500	1	式	500		実費
	印刷・文具代等(クラブ)		1	式	-		実費
	送料(普及事務局)	3,000	1	式	3,000		実費
	送料(クラブ)		1	式	-		実費
	その他 計				6,500		
	支出 小計				96,222		「収支予算表1」の各活動の金額は、この支出小計を計上する。

337-D地区（鹿児島・沖縄）の現状

幼・小・中学校基本データ（都道府県別）

文部科学省 学校基本調査 令和5年度速報値より

	幼稚園数 (園)	在園者数 (人)	幼稚園教員数 (人)	幼保連携型 認定こども園 (園)	在園者数 (人)	保育職員数 (人)	小学校数 (校)	小学生数 (人)	小学教員数 (人)	中学校数 (校)	中学生数 (人)	中学教員数 (人)
令和5年度（全国合計）	8,837	841,795	104,559	6,982	643,261	180,866	18,979	6,049,503	424,155	9,944	3,177,547	247,373
鹿児島県	134	7,425	946	248	22,319	5,100	491	85,954	7,512	220	45,323	4,259
沖縄県	151	6,518	931	158	15,707	3,360	266	100,470	6,588	150	50,485	3,876

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

令和4年度 都道府県別 校園別暴力行為発生件数

(1)【小学校（国公立）】

	対教師暴力 発生件数 (件)	対教師暴力 1,000人当 たりの発生 件数 (件)	生徒間暴力 発生件数 (件)	生徒間暴力 1,000人当 たりの発生 件数 (件)	対人暴力 発生件数 (件)	対人暴力 1,000人当 たりの発生 件数 (件)	器物損壊 発生件数 (件)	器物損壊 1,000人当 たりの発生 件数 (件)	計 発生件数 (件)	計 1,000人当 たりの発生 件数 (件)
46 鹿児島県	15	0.2	27	0.3	4	0.0	9	0.1	55	0.6
47 沖縄県	186	1.6	1,765	17.4	30	0.5	176	1.7	2,157	21.3
00 全国	9,021	1.5	45,428	7.3	524	0.1	6,482	1.0	61,455	9.9

※都道府県別には、指定都市を含む。

(2)【中学校（国公立）】

	対教師暴力 発生件数 (件)	対教師暴力 1,000人当 たりの発生 件数 (件)	生徒間暴力 発生件数 (件)	生徒間暴力 1,000人当 たりの発生 件数 (件)	対人暴力 発生件数 (件)	対人暴力 1,000人当 たりの発生 件数 (件)	器物損壊 発生件数 (件)	器物損壊 1,000人当 たりの発生 件数 (件)	計 発生件数 (件)	計 1,000人当 たりの発生 件数 (件)
46 鹿児島県	8	0.2	93	2.0	0	0.0	19	0.4	120	2.6
47 沖縄県	60	1.2	520	10.4	10	0.2	159	3.2	749	15.0
00 全国	2,702	0.8	21,364	6.6	477	0.1	5,156	1.6	29,699	9.2

※都道府県別には、指定都市を含む。

令和4年度 都道府県別・指定都市別 いじめの認知件数及びアンケート調査実施状況

(1) 都道府県別（国公立）

	認知件数	認知件数	認知件数	認知件数	認知件数	1,000人当 たりの認知 件数 (件)	アンケート調 査実施学校数 (校)	アンケート調 査実施率 (%)
	小学校 (件)	中学校 (件)	高等学校 (件)	特別支援学校 (件)	計 (件)			
46 鹿児島県	7,540	2,964	427	47	10,978	57.6	821	98.4
47 沖縄県	12,567	1,217	247	108	14,139	64.4	478	94.1
00 全国	551,944	111,404	15,568	3,032	681,948	53.3	34,961	97.2
令和3年度	500,562	97,937	14,157	2,595	615,351	47.7	35,120	97.1

(注) 都道府県別には、指定都市を含む。